第 3 回　インターンシップ報告書

2011 年 6 月 1 日
国際協力特化コース
博士前期課程 1 年
松本　夏季

【基本情報】

派遣先	国連人権高等弁務官事務所（OHCHR）
都市	スイス、ジュネーブ
勤務部署	Research and Right to Development Section
派遣機関	4 月 28 日（月）～6 月 30 日（木）予定。その後は同ジュネーブで国際移住機関（IOM）でのインターンシップに移行する。

【6 ヶ月後に期待される効果】

・国際機関の役割と実際の運営について理解を深めると同時に、実務を体験する。
・インターンシップ経験を踏まえ、自身の研究を深める。
・ジュネーブという土地の利点を生かし、国際機関職員を中心に様々な人と知り合う。
・英語の運用能力を含めたコミュニケーション能力を向上させる。
・フランス語の習得。
・大学院修了後の具体的な進路を模索する。
・インターンシップでの経験を大学に還元する。

5 月のレマン湖（筆者撮影）

【受入機関情報】

受入機関	国連人権高等弁務官事務所 (Office of the High Commissioner for Human Rights: OHCHR) http://www.ohchr.org/EN/Pages/WelcomePage.aspx
受入部署	Research and Right to Development Division, Right to Development Section
業務内容	1986 年「発展の権利に関する宣言」の採択 25 周年に関連するイベント補佐。具体的には年末に発行される記念冊子の編集補佐と、10 月にジュネーブで行われるソーシャル・フォーラムの準備補佐の 2 つが主な業務内容となり、その他上司や同僚からの依頼にフレキシブルに応える。 5 月はとくにソーシャル・フォーラムの準備補佐に多く関わった。イベントの立ち上げの段階であり、パネル・ディスカッションのテーマを決める議論に関わるのは非常におもしろい。今年のソーシャル・フォーラムの大きなテーマは「発展の権利の実現における市民社会の役割」であり、テーマに関わるリサーチをいくつか行った。
現時点での課題	英語でのコミュニケーションは、1 対 1 でのやりとりやメール交換ではほとんど問題はないが、ネイティブ・スピーカー同士が話すスピードについていけないことがある。リスニング・スピーキング能力ともに向上させたい。 業務内容については慣れては来たが、より本質的な業務を任せてもらえるよう”Right to Development”そのものに関する勉強は業務外の時間にも自主的に続けている。6 月は直属の上司が 20 日ほど休暇をとるらしく、他の同僚からも仕事を任せてもらえるよう積極的に動きたい。
その他	5 月 30 日からは国連人権理事会 17 回期が始まり、サイドイベントの撮影スタッフに駆り出されることもあった。スタッフでなくても、関心のあるミーティングやパネルにはインターンバッジさえあれば自由に出入りできる。UN バッジを持っていれば Palais des Nations はもちろん、他の国連機関の多くにも出入りできるので重宝している。 現在所属している Research and Right to Development Section はヘッドの言葉いわく「ＵＮシステム内で唯一 Development と Human rights の概念を結びつけようとしているセクション」であり、執筆中の論文内容とは異なるが非常に興味深く、是非今後も関わっていきたいテーマである。セクションの中に居ると”Right to Development”もう確立された概念のように感じるが、国際社会においてはとくに先進国・途上国間で未だにコントロバーシャルな概念であるようだ。インターンシップを通して国連を内部から見る機会を十分に生かしつつも、マクロの視点で外から国連を見る姿勢も忘れずに居たい。

ID カード。インターン初日に Palais des Nations で作成してもらう。大体の国連機関にはこのカードで入ることができる。
（筆者撮影）

【その他】

天候	日が落ちるのが遅く、毎日気持ちよく晴れている。昼間はすでに夏の陽気であるが、朝夜は涼しく上着が必要である。休日の昼にレマン湖で泳いでいる人も見かけるが、まだ水は冷たそうだ。
生活費	ジュネーブの物価は全体的に東京よりも高いように感じるが、とくに食費が高く、外食はランチでも 15 フランほどかかる。国連のカフェテリアはとくに Palais des Nations はサラダバーも充実しており 8~13 フランほどで食べられるが、最近はもっぱらサンドウィッチを持参している。交通費はジュネーブ市内のバス・トラム・船を自由に使える定期が学生料金で付き 45 フランであるが、ほとんど徒歩で行けるため不要かもしれない。